

化石研究グループの紹介

滋賀県足跡化石研究会

岡村喜明

〒520-3005 滋賀県栗東市御園1022-7

Shiga Fossil Footprint Research Group

Yoshiaki Okamura

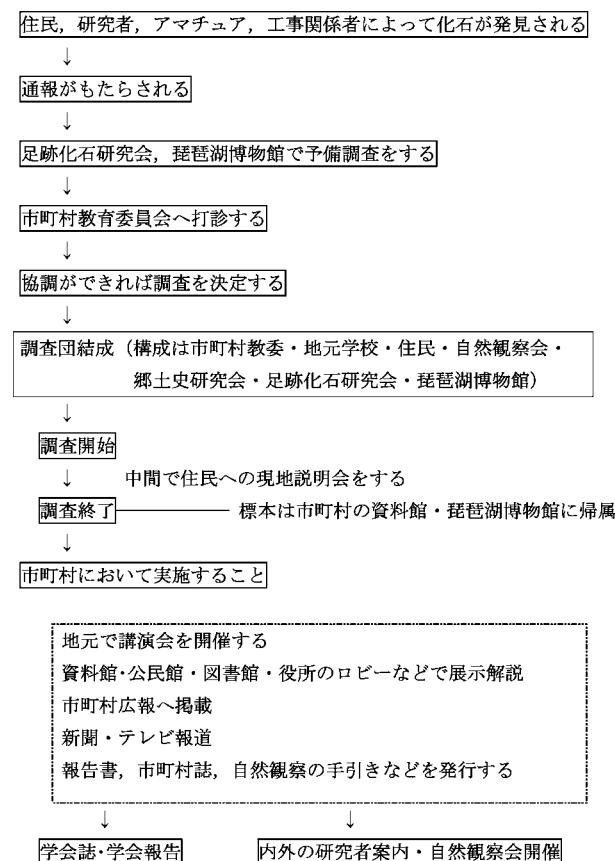
Misono 1022-7, Ritto, Shiga, 520-3005

はじめに

今から29年前の昭和50年（1975），私は滋賀県草津市で近隣の化石の好きな子どもたちや理科，地学の教諭たちと草津地学同好会を結成した。そして，地元の中新統の鮎河層群，隣接する第一瀬戸内累層群，鮮新～更新統の古琵琶湖層群の化石採集を楽しんでいた。時は流れ昭和63年（1988），県内を流れる野洲川河床の古琵琶湖層群から多くの長鼻類や偶蹄類の足跡化石が発見されたことを契機に，折しも開設が進んでいた県立琵琶湖博物館開設準備室のスタッフが草津地学同好会に加わることで，特に古琵琶湖層群の地質，体化石，足跡化石の研究が一気に進展することとなった。そこで私は草津地学同好会を一度解散し，平成3年（1991）に滋賀県足跡化石研究会を発足させた。足跡化石研究会の発足当初の目的は，滋賀県での昭和63年の大発見が国内の足跡化石研究の火ぶたを切ったことによって，滋賀県足跡化石研究会が率先して琵琶湖博物館とともに今後も足跡化石研究の火を消さないようにしていくことが必要と考えたためである。

さて，当会の構成メンバーであるが，国内のほかの研究会のように多くの会員で構成されてはおらず10名にも満たない。それは私たちが「滋賀方式」と名づけているシステムをとって調査を進めていることによる。このシステムは当会と博物館，地元の人々との連携を目的としたものであらたな足跡化石発見の情報が入れば，まず琵琶湖博物館の学芸員と現地調査をして，総合的な調査が必要と認めれば地元の教育委員会に連絡し，地元住民とともに調査団を結成する（表1）。そのため，実際の調査活動のメンバーは一挙に20～30名に膨れあがるのである。また，このシステムは足跡化石に加えてアケボノゾウやシカ類などの体化石の発掘でも用いられてきた。このようにして三重県から滋賀県にかけて分布する古琵琶湖層群からの化石は，地元の自然遺産として，まず地元の人たちが触れ，協力して調査，研究がなされる（図1，2）。そしてこれらの標本は県立琵琶湖博物館を通じて自然遺産の保存や展示に向けての理解と自然保护の教育を推進する良き材料となっている。

表1. 調査の過程と実施内容。



古琵琶湖層群の足跡化石調査

三重県伊賀地方から滋賀県にかけて分布する古琵琶湖層群からの足跡化石産地は，現在では40数ヶ所にのぼる（図3）。当会では1988年10月以来それらのすべてを調査して記録してきた。そして，その中で前記したように地元の教育委員会や住民と協力して調査をおこなった産地は，全体の四分の一の約10ヶ所である。ほかの産地は露頭状態や化石の保存が悪い，あるいは河川による浸食や工事にともなう産地の消失や，発掘時に子供達に危険が生じるなどの理由で当会のメンバーだ



図1. 蒲生郡蒲生町綿田の佐久良川河床の足跡化石発掘現場. 多くの地元住民が参加している.



図2. 三重県伊賀町御代の柘植川河床の足跡化石発掘現場. 河床に認められる多数の“穴”が長鼻類の足跡化石.

けで短期間で調査し、データとして記録した。また、その記録はできるだけ報告書で公にしたり（岡村, 1993, 2000a; 岡村他, 1995; 岡村・高橋, 1999, 2001）地元の教材になる小冊子として発行した（水口町宇田・北内貴野州川河床化石調査団編集委員会, 1998）。しかし、これらの化石産地は河床や工事現場が多いため、それらのすべてを現場で永久保存することは不可能である。そのため現場で化石のレプリカを作製し、それらの標本や記録はできるだけ地元の博物館、資料館に残して、その一部を県立琵琶湖博物館に保管する方法をとっている。そうすることによってすでに無くなってしまった露頭の状態や足跡化石でも機会あるごとに地元住民の目に触れ、理科教育や生涯教育などの教材としても活用される。また、現在、琵琶湖博物館に保管されている足跡化石の標本は恐らく国内では類を見ないほどの数であると自負しており、内外の足跡化石の研究者がいつ訪れても恥ずかしくない状況である。標本の管理自体は博物館が行うが、研究会としては、更に追加標本やデータを集め、今後も活動を継続し

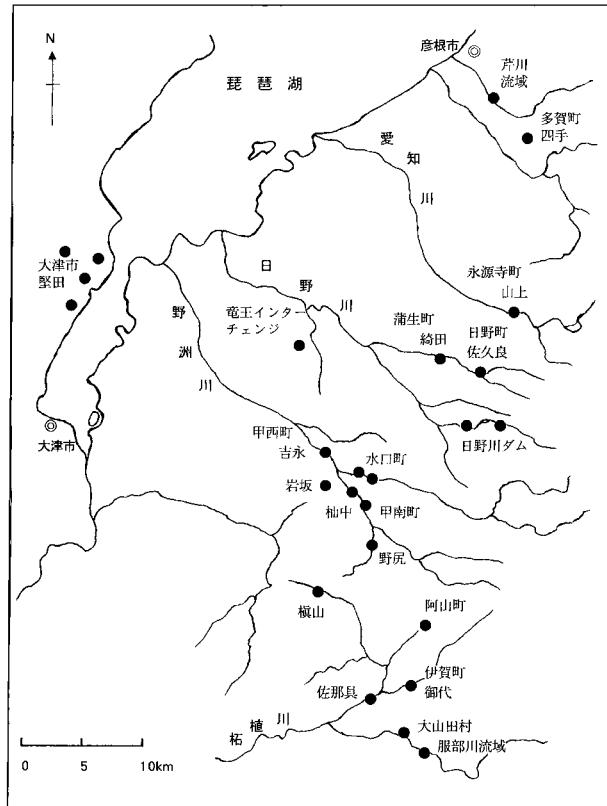


図3. 古琵琶湖層群の主な足跡化石産地

ていくつもりである（岡村他, 1999; 岡村, 2000b）。

古琵琶湖層群以外の足跡化石調査

以上のように滋賀県足跡化石研究会では三重県伊賀地方の人々とも連絡を密にして化石の発見の情報のやり取りや観察会をもっているが、そのほかの県でも調査（あるいは共同調査）や研究をすすめており、いくつかの発見をしている（岡村他, 2001）。これまでに調査した主な足跡化石産地は以下のとおりである。

石川県鳳至郡門前町浦上のワニ類足跡化石（中新世）

金沢市大桑町の長鼻類とシカ類の足跡化石（更新世）

福井県丹生郡越廻村大味の長鼻類、サイ類、シカ類の足跡化石（中新世）

兵庫県城崎郡香住町下浜の長鼻類、サイ類、シカ類、トリ類の足跡化石（中新世）

また、これら発見の情報や調査の成果のあらましは「足跡化石ニュース」として会員のみならず国内の研究者にも送付している。これは現在第151号に達している。

今後の取り組み

国内における足跡化石の研究はまだまだ未熟な段階であるが、当会は前記したような産地の調査、研究以外に、最近では国内外の動物園、サファリパークのみならず中国や

東南アジアの野生動物の生態と足跡の観察をすすめていくことと平行して、講演会では動物学者や獣医師からの話を聞き、そこから古生物の生態に迫ろうとする試みもしている。

最後に、大袈裟な言い方であるが滋賀県から始まった足跡化石研究の輪をもっと拡大し、国内の古足跡学がより発展するように精進することと各地の産地の調査に参加し、地元とともに歩んでいけるようになればと願うものである。

○連絡先 〒520-3005

滋賀県栗東市御園1022-7

滋賀県足跡化石研究会 会長 岡村喜明

Tel. 077-558-3913, Fax. 077-558-3914

○活動

- ・足跡化石の発見にともなう発掘、調査と旧化石産地の巡回。
- ・古琵琶湖層群の地質と化石の調査。
- ・足跡化石ニュースの発行。

○入会方法

会則、入会金、会費などは特にないが、足跡化石ニュースの郵送費として年間800円（80円切手10枚）が必要です。詳細はFaxでお問い合わせ下さい。

参考文献

- 水口町宇田・北内貴野州川河床化石調査団編集委員会, 1998. 開け太古の扉—地層や化石を調べてみよう—. 21p., 水口町教育委員会・水口町都市計画課.
- 岡村喜明, 1993. 愛知川化石林にともなう足跡化石、愛知川化石林—その古環境復元の試みー. 愛知川産化石林調査団. 琵琶湖博物館開設準備室究査報告書. 1, 81-95.
- 岡村喜明, 2000a. 石になった足跡—へこみの正体をあばくー. 270 p., サンライズ出版.
- 岡村喜明, 2000b. 古琵琶湖層群における住民参加と琵琶湖博物館の役割. 地団研第54回総会要旨, 104.
- 岡村喜明・安野敏勝・高橋啓一, 2001. 足跡化石、福井県越廻村の哺乳類足跡化石. 越廻村哺乳類足跡化石調査委員会, 16-40.
- 岡村喜明・高橋啓一, 1999. 足跡化石、石川県門前町の足跡化石. 石川県門前町足跡化石調査団, 23-56.
- Okamura, Y. and Takahashi, K., 1999. Community participation in the survey of the Kobiwako Group and the role of the Lake Biwa Museum. In: Kawanabe, H., Coulter, G. W. and Roosevelt, A. C. eds., *Ancient Lakes, Their cultural and biological diversity*, 291-301, Kenobi Production, Belgium.
- 岡村喜明・高橋啓一, 2001. 地域の人たちと共に調べる古琵琶湖層群の足跡化石. 地学教育と科学運動, 36, 7-12.
- 岡村喜明・高橋啓一・黒川明, 1999. 古琵琶湖層群産足跡化石との調査・研究法. 化石研究会会誌, 30, 24-33.
- 岡村喜明・田村幹夫・高橋啓一, 1995. 古琵琶湖層群の足跡化石. 琵琶湖博物館開設準備室研究調査報告書, 3, 135-199.
- Takahashi, K. and Okamura, Y., 1996. Implication of footprint fossils for the Plio-Pleistocene mammal fauna of the Japanese Islands. 30th International Geological Congress Abstracts 2, 135.

